

## 「手書き」が生み出す温かさ

言の葉大賞<sup>®</sup>実行委員長 柿本 遼平

本年も全国より二万通を超えるご応募をいただきました。作品を書いていただきました皆様、そして、その作品を応募いただきました関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

当コンクールは、八〇〇字でテーマに沿った文章を「手書き」で募集するということを継続しています。

毎年のテーマを考えると私の中の頭の中にあるのは、その時々時代の背景や環境がどのように人々の「心」に影響を与えたのか、ということだと思います。そうして送られてくる作品は、日常の中で感じた自分の思いをストレートに綴られた文章が多く、読み手の記憶に残り安らぎと温もりを与えてくれます。

本年も「つなぐ」というテーマのもと、世代を超えて様々な場面を写し出してくれた多くの作品に出会えました。「バトン」「親子・友人間の絆」「夢」「伝統」「環境」「命」「SNS」……。どの作品も読んでみると、情景が浮かび人生の一端を共有いただけているということに喜びを感じます。

ここ数年、作品の題材として選ばれる「SNS」。これは、私たちの生活の中で急速に広がりを見せたコミュニケーション方法の一つとなります。しかし、これを使うことによる利便性の高さに慣れてしまい、失われるものもあると私は考えます。

SNSの浸透でコミュニケーションが感覚的になり簡略化していく中で、『言の葉大賞』によつて「手書きを通して自分の思考力を伸ばして欲しい」という思いがあります。これはデジタルとは相反することではあるのですが、その行為を通してでしか得られない経験の積み重ねが「自己を形成する」と信じているからです。

時代の流れの中に新しい事象が生まれ、それに順応していくために、私たちは前に進むこととなります。そんな中でも、ふとした時に「手書き」という行為を重ねていき、自分と向き合うのもいいのではないのでしょうか。